

く 繰り返し同じ方法に頼らない

まちづくりの課題に対してどのようにアプローチするか。具体的にどのような取組をすると良いのかというのは常に頭を悩ます。ただ、経験を重ねると「このケースにはこれが有効」というものが見えてくることがある。それがわかるといついついまたそれを使いたくなる。そして困ったことにたいていはうまくいく。問題はそこからだ。それを「成功の方程式」のように思い込んで、こんどもこれでなんとかなると端っから思つて、それをすぐ思いつく自分を「どうだ」と思つてしまつと、その人に先はない。と思つてしまふのだ。

繰り返し書いているかもしれないが、同じまちは二つと無い。それぞれに歴史や生業から違ふし、生活文化も異なる。一見して似たように見えても住民の気質やキーパーソンの存在も異なるし、課題も様々だ。そうなると思はれるアプローチやアウトプットはひとつひとつ異なるはずだ。でも、どこかで上手くいった取組を使いまわしても、それなりの成果は得られる。そのことが悪いわけでは無いが、そのまちの現状や課題の分析をおろそかにして手法だけにたよるのはその人に良く無いと思う。その都度、現状や課題にきちんと目を向けることによって、まちづくりプランナーとしての引き出しが増え、工夫も生まれる。そのせつかくの機会を放棄するのはもったいないと思うのだ。

同じまちに何年も関わり続けることができるのは嬉しいが、そこで繰り返し同じ手法に頼るのは避けたい。まちづくりプランナーが関わり始めた当初は、期待の目でみられることも少なくないし、まちづくりプランナーの進め方に新鮮さを感じ、何かまちに変化が生まれるのでは無いかという高揚感も生まれる。しかし、同じ手法を繰り返すと成果はそれなりにあるとしても、受け止める側の新鮮さが失われ「ああ、またか」という気持ちにさせてしまふ。これももったいないことだ。

効果のあるやり方の引き出しはたくさんある方が良いし、状況にあわせて使いこなしていくことは必要なことだが、そこにある落とし穴には気をつけよう。「繰り返し同じ手法に頼らない」という気持ちを持ち続けていることが大切だと思うのだ。